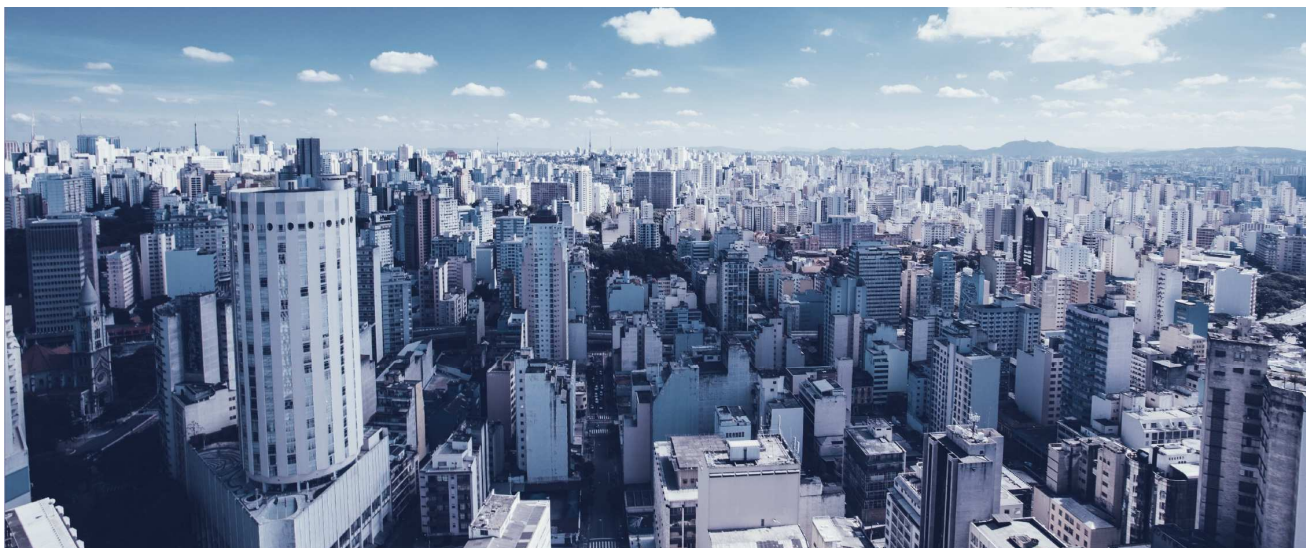


産学連携で SDGs を考える

名古屋外国語大学との PBL 連携授業



ANA 総合研究所では大学での PBL の取り組みに力を入れています。

PBL（Project Based Learning）は、課題解決型の講義で、学生が自ら考えて解決策を練るプロセスにおいて多くの学びが得られる学習手法であり、多くの大学が導入を望んでいるものの、課題も多く成功事例は多くはありません。そこで、かねてより産学連携の事業で大学との連携を行ってきた ANA 総合研究所が、その導入に協力することで、人財育成に貢献したいと活動を始めています。今回は、名古屋外国語大学における PBL 授業導入に参加しました。

本連携は、ANA 総合研究所の研究員でもある同大学の竹ノ内典子先生の発案で始まりました。試行錯誤ではあったものの、連携により、良い授業が実現しました。

来年度以降も、大学における PBL の推進に取り組んでいきます。

PBL 授業を通じて出された学生からの提案

「SDGs への貢献」というテーマで、課題の設定から自分たちが行える解決策の提案に至るまで、各グループで活発な議論を行いました。学生からの提案（概要）は、以下の通りになります。

【解決策】 介助犬の認知度向上

盲導犬に比べて介助犬の認知度は低いいため、支援が十分に得られないことや、理解が進まないことで入店拒否など誤った行動が散見される。介助犬訓練施設の近隣の同大が、ANA と共同で認知度向上に資する取り組みを提案。

【提案のゴール】



【解決策】 親子で SDGs を学ぼう

SDGs を子供のころから学ぶ機会が少ないことに着目し、双六を使って楽しく親子で学ぶ機会を作りたい。その双六のテーマを ANA の SDG s 活動の事例を使って作成しようと提案。

【提案のゴール】



参加した学生の声

- ・限られた時間で、チームメンバーと構想を練り、先生や ANA 総研のスタッフと議論をし、テーマを決め、具体化していくプロセスは本当に大変でした。
- ・当初予定していた提案内容の実現までは果たせませんでしたが、調査し、ヒヤリングを行い、具体的な提案ができるまでできたことは非常に良い経験になりました。
- ・SDGs について真剣に考え、推進するための課題を知ることが出来ました。改めて SDGs の各項目を実現することの難しさや重要性を理解することが出来ました。

竹ノ内先生のコメント

PBL 授業を通じて、学生は地域や社会の課題を自分事として考え、課題解決に向けた具体的な施策を立案しました。その活動を通じ、自分自身の強みや弱みも痛感することになります。ANA 総研スタッフからの時に厳しいご意見等も学生の糧になったと感じています。また、何より SDGs 推進のために、自分たちに何が出来るのかを真剣に考え、様々な調査、グループワーク、プレゼンテーション等を通じて大きく成長できたことは、学生にとって得難い体験でした。また、SDGs を通じて日本、更には国際社会の課題を認識し、その背景を知る良い機会となりました。